

日本初！横浜港におけるグリーンメタノールの 利用促進に向けて覚書を締結しました

この度、マースク A S^{※1}（駐日代表 山本 航平）、三菱ガス化学株式会社（代表取締役社長 藤井 政志）及び横浜市（市長 山中 竹春）は、国際海運の脱炭素化、国際コンテナ戦略港湾政策の推進及び横浜港におけるカーボンニュートラルポート形成を目指して、次世代船舶燃料としてのグリーンメタノールの横浜港におけるバンカリング^{※2}の実施等の利用促進を目的に、本日覚書を締結いたしました。

世界大手の総合物流企業であるマースク A S、我が国のメタノール供給最大手である三菱ガス化学株式会社及び我が国を代表する総合港湾を擁する横浜市が、船舶燃料としてのメタノール及びグリーンメタノールの供給方法について連携して検討し、関係官庁の協力を得ながら、日本初のメタノールバンカリングの実現に向けて取り組みます。

※1 A Sはデンマーク語で株式会社の意味です。

※2 バンカリングとは、船舶に燃料を供給することを意味します。

1 覚書の内容

- （1）メタノール燃料船の就航及び技術開発に関する知見を共有すること。
- （2）船舶燃料としてのメタノール並びにグリーンメタノールの需要動向、生産、開発状況及び安全対策に関する知見を共有すること。
- （3）横浜港におけるメタノール及びグリーンメタノールのバンカリング実施に向けて必要となる港湾施設の整備や運用に関すること。
- （4）必要となる関係官庁との協議に関すること。



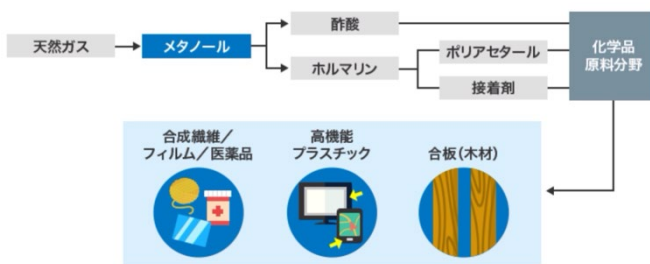
左からマースク A S 駐日代表山本様、横浜市山中市長、
三菱ガス化学株式会社代表取締役社長藤井様（横浜市庁舎にて）

2 メタノール／グリーンメタノールとは

メタノール (CH₃OH) は多くの化学品の原料^{※3}として生活に欠かせない素材であり、近年ではエネルギー分野での消費も増えています。現在、メタノールは主として天然ガスから製造されていますが、水素や二酸化炭素などからも製造できるため、脱炭素社会の実現に寄与する素材として期待されています。

メタノールも水素と同様にグリーン、ブルー、グレーなど様々な「色」を付した分類・整理が進められており、様々な国際機関によって「色」の定義が検討されています。炭素集約度が最も低い水準のメタノールが「グリーンメタノール」と呼ばれており、現在は食品廃棄物や家畜排せつ物などのバイオマス原料等から生成されるメタノールが分類されます。

※3 ホルマリン (接着剤、ウレタン原料等)、酢酸 (ペットボトル等)、ガソリン添加剤ほか多数



メタノールの化学品原料としての主な用途
(三菱ガス化学株式会社ホームページより)



マースク社のグリーンメタノールバンカリングの様子
(2023年7月、シンガポール港)

3 各社紹介

(1) マースク A S

1904年にデンマークで創業された総合物流企業。日本(横浜港)への初寄港は1924年。現在は130カ国以上で事業を展開しています。2023年9月に世界初となるグリーンメタノール燃料に対応するコンテナ船を命名し、10月よりバルト海航路に就航させました。マースクは、新たな技術、新たな船舶、そしてグリーン燃料を用いて、2040年までにすべての事業の温室効果ガス排出量ネットゼロ達成を目指しています。

(2) 三菱ガス化学株式会社

三菱ガス化学はグループミッション「社会と分かち合える価値の創造」に基づき、長年培ってきた自社触媒を基にしたメタノール製造技術により、CO₂・廃プラスチック・バイオマスなどを、メタノールに転換して化学品や燃料・発電用途としてリサイクルする取組「環境循環型メタノール構想“Carbopath™”」を推進しており、構想の社会実装を通じて、温室効果ガスの排出削減や循環型経済への移行に貢献してまいります。

お問合せ先

横浜市港湾局政策調整課カーボンニュートラルポート担当課長 中村 仁 Tel:045-671-7279
マースク A S 社長室 古屋 真由美 Tel:050-4560-2762
三菱ガス化学株式会社 総務人事部広報グループ 担当 日永田 真一 Tel:03-3283-5040